人間関係

〔他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人とかかわる力を養う。〕

1　ねらい

⑴　幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。

⑵　身近な人と親しみ，かかわりを深め，愛情や信頼感を持つ。

⑶　社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

2　内　容

⑴　保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。

⑵　自分で考え，自分で行動する。

⑶　自分でできることは自分でする。

⑷　いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。

⑸　友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。

⑹　自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付く。

⑺　友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう。

⑻　友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。

⑼　よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。

⑽　友達とのかかわりを深め，思いやりを持つ。

⑾　友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き，守ろうとする。

⑿　共同の遊具や用具を大切にし，みんなで使う。

⒀　高齢者を始め地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。

3　内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては，次の事項に留意する必要がある。

⑴　保育教諭等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し，園児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し，試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう，園児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

⑵　園児の主体的な活動は，他の園児とのかかわりの中で深まり，豊かになるものであり，園児はその中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ，一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に，園児が自己を発揮し，保育教諭等や他の園児に認められる体験をし，自信を持って行動できるようにすること。

⑶　園児が互いにかかわりを深め，協同して遊ぶようになるため，集団の生活の中で，自ら行動する力を育てるようにするとともに，他の園児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

⑷　道徳性の芽生えを培うに当たっては，基本的な生活習慣の形成を図るとともに，園児が他の園児とのかかわりの中で他人の存在に気付き，相手を尊重する気持ちを持って行動できるようにし，また，自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に，人に対する信頼感や思いやりの気持ちは，葛藤やつまずきをも体験し，それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

⑸　集団の生活を通して，園児が人とのかかわりを深め，規範意識の芽生えが培われることを考慮し，園児が保育教諭等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で，互いに思いを主張し，折り合いを付ける体験をし，きまりの必要性などに気付き，自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

⑹　高齢者を始め地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い，自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ，共感し合う体験を通して，これらの人々などに親しみを持ち，人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また，生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き，家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

環　境

〔周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり，それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。〕

1　ねらい

⑴　身近な環境に親しみ，自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。

⑵　身近な環境に自分からかかわり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れようとする。

⑶　身近な事象を見たり，考えたり，扱ったりする中で，物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにする。

2　内　容

⑴　自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く。

⑵　生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心を持つ。

⑶　季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。

⑷　自然などの身近な事象に関心を持ち，取り入れて遊ぶ。

⑸　身近な動植物に親しみを持って接し，生命の尊さに気付き，いたわったり，大切にしたりする。

⑹　身近な物を大切にする。

⑺　身近な物や遊具に興味を持ってかかわり，考えたり，試したりして工夫して遊ぶ。

⑻　日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。

⑼　日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。

⑽　生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。

⑾　幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しむ。

3　内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては，次の事項に留意する必要がある。

⑴　園児が，遊びの中で周囲の環境とかかわり，次第に周囲の世界に好奇心を抱き，その意味や操作の仕方に関心を持ち，物事の法則性に気付き，自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。特に，他の園児の考えなどに触れ，新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい，自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。

⑵　乳幼児期において自然の持つ意味は大きく，自然の大きさ，美しさ，不思議さなどに直接触れる体験を通して，園児の心が安らぎ，豊かな感情，好奇心，思考力，表現力の基礎が培われることを踏まえ，園児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫をすること。

⑶　身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い，共感し合うことなどを通して自分からかかわろうとする意欲を育てるとともに，様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念，生命を大切にする気持ち，公共心，探究心などが養われるようにすること。

⑷　数量や文字などに関しては，日常生活の中で園児自身の必要感に基づく体験を大切にし，数量や文字などに関する興味や関心，感覚が養われるようにすること。

言　葉

〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し，相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て，言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕

1　ねらい

⑴　自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。

⑵　人の言葉や話などをよく聞き，自分の経験したことや考えたことを話し，伝え合う喜びを味わう。

⑶　日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，保育教諭等や友達と心を通わせる。